
IT ビジネス・マネジメント B

経済学研究科助教授 末松 千尋

ITビジネス・マネジメントにおける後期学習テーマ

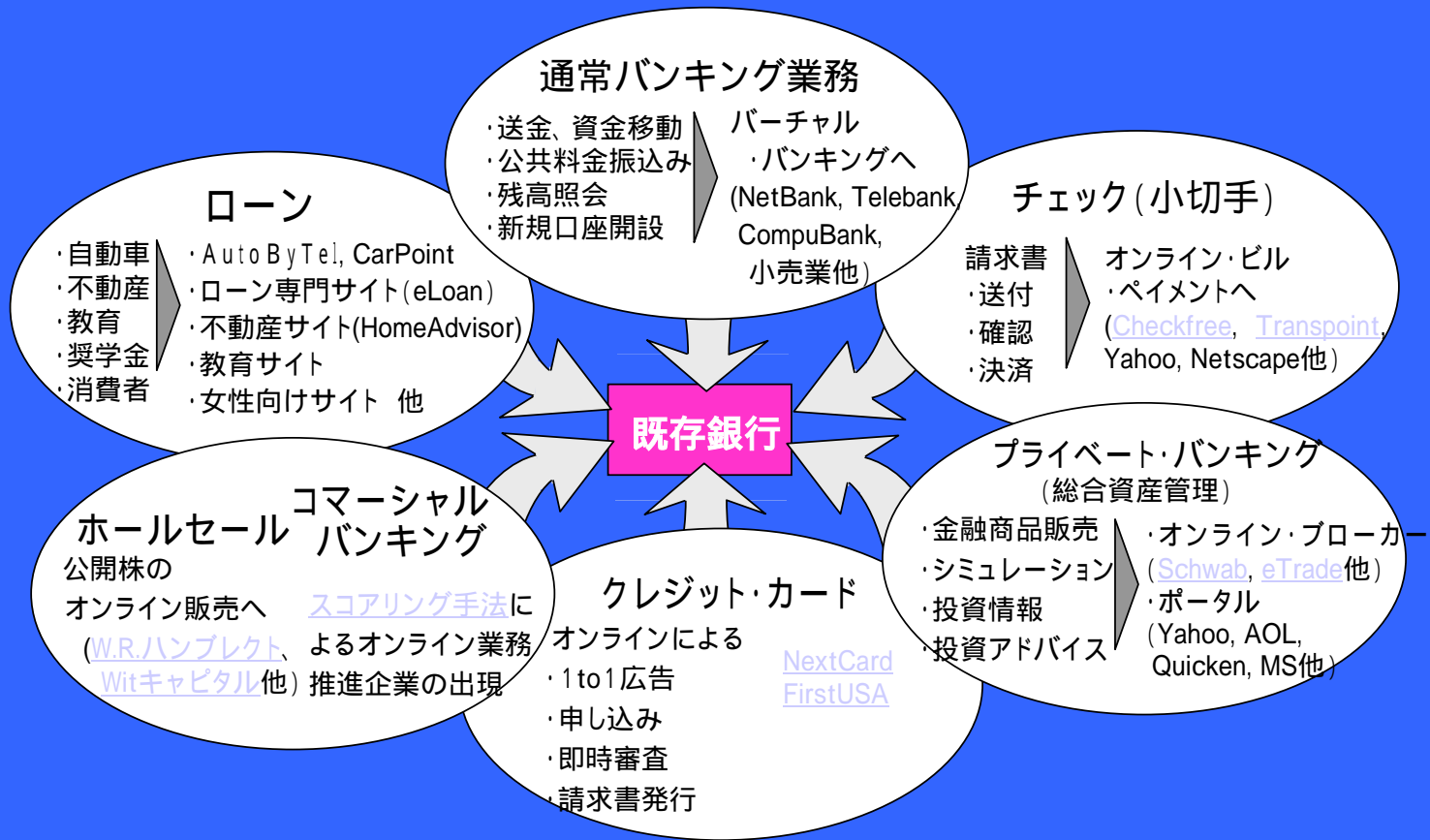
金融業界

製造業界

流通業界

業界を超えた交換プラットフォーム

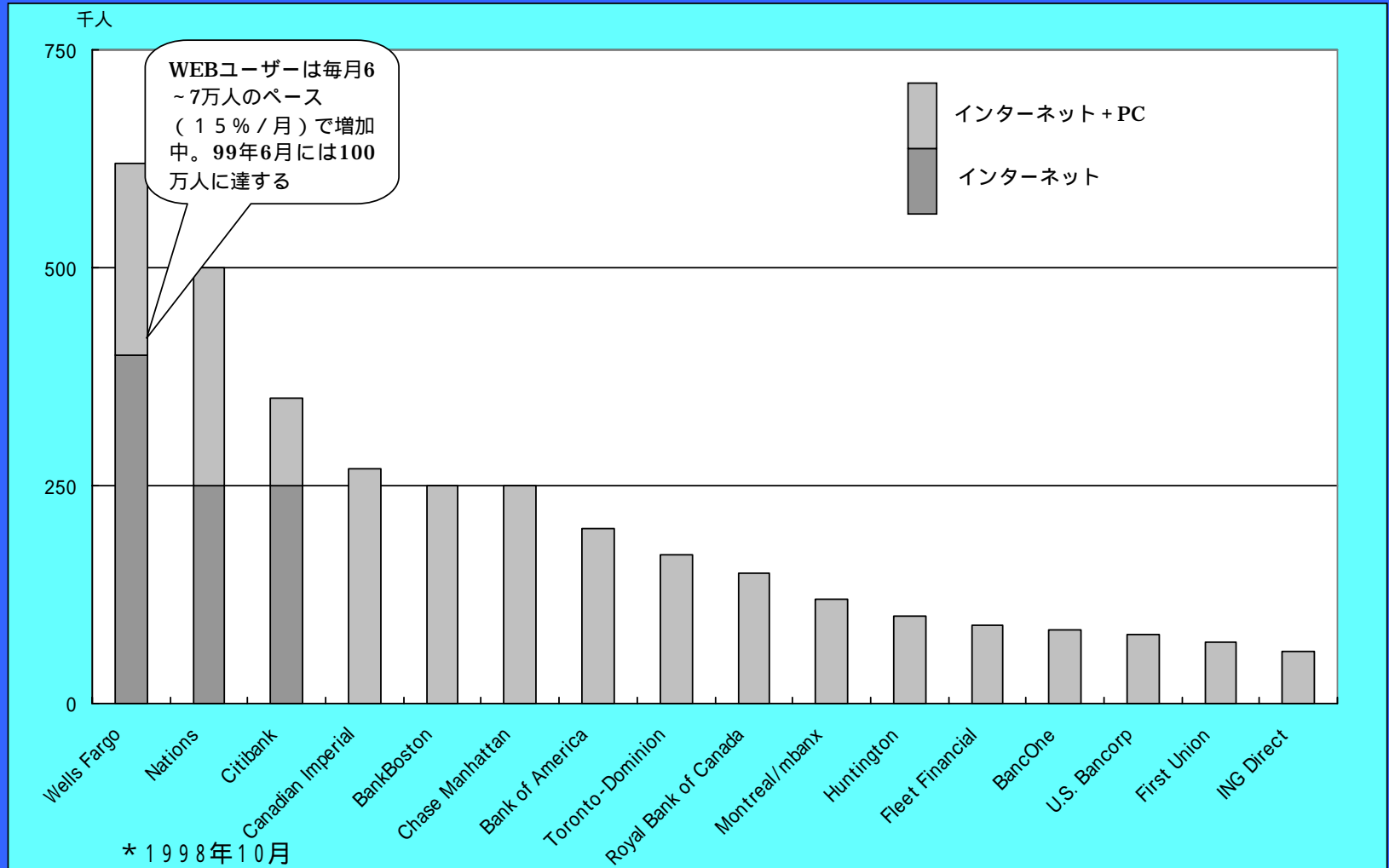
既存銀行を脅かすハイテク企業、小売業からのインターネットの脅威



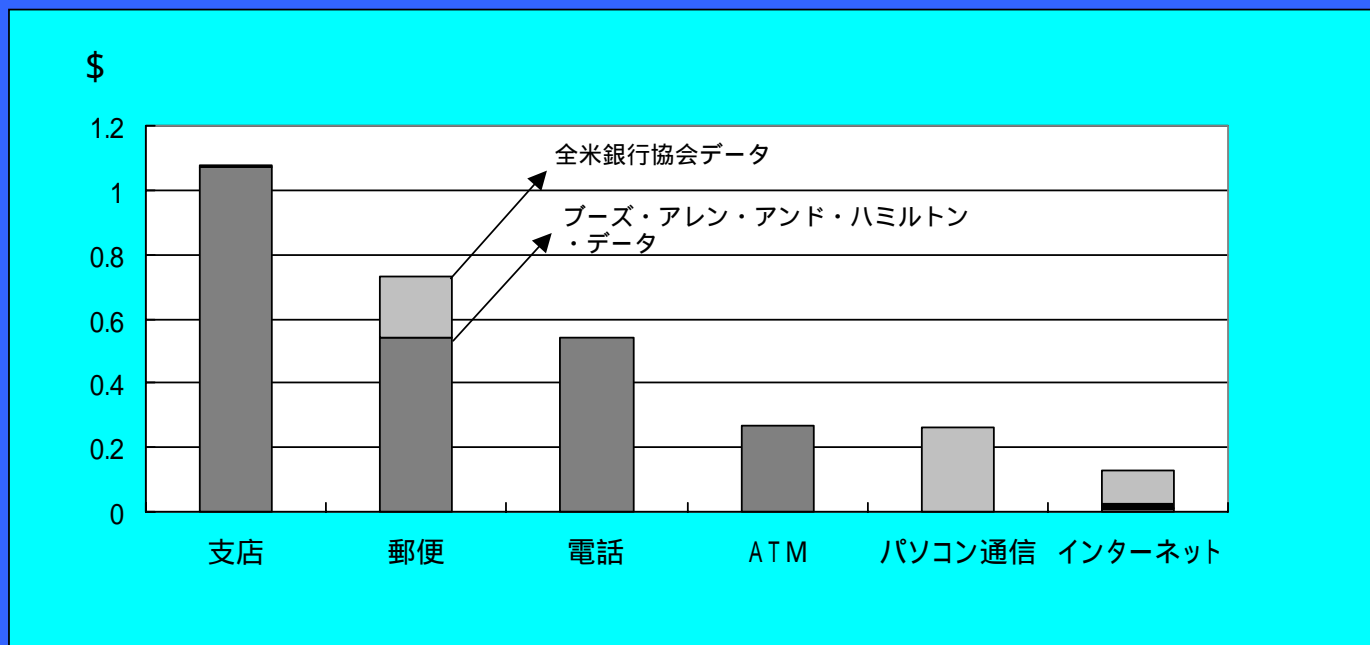
インターネット・オンリー・バンク

銀行	設立	口座数	特徴
セキュリティ・ファースト・ネットワーク・バンク	1995年 10月	20,000	セキュリティ・ファースト・テクノロジー社の子会社で、セキュリティ・ファースト・テクノロジー社はオンライン・バンキング用のアプリケーション・ソフトを、全米100行近い顧客に販売している
ネット・バンク	1996年 10月	4,700 (1997) 20,000 (1998)う い	設立当初は、“アトランタ・インターネット・バンク”。従業員30名。成長率325%。総資産3.8億ドル。1998年より黒字転換(\$691,000)。1999年度第1四半期は、既に8,000口座を獲得した
テレバンク	1998年3月 インターネット 業務開始	21,800 (1997) 50,800 (1998)	創業と電話業務の開始は、1993年。従業員130名。成長率133%。総資産22.9億ドル。1999年6月、E*Tradeが買収。
コンピュバンク	1998年 第2四半期		総資産6億ドル
ファースト・インターネット・バンク・オブ・インディアナ	1999年2月 インターネット 業務開始		一年で15,000口座(資産1億5,000万ドル)を獲得予定 従業員12名
USAcess バンク	1999年2月 インターネット 業務開始		

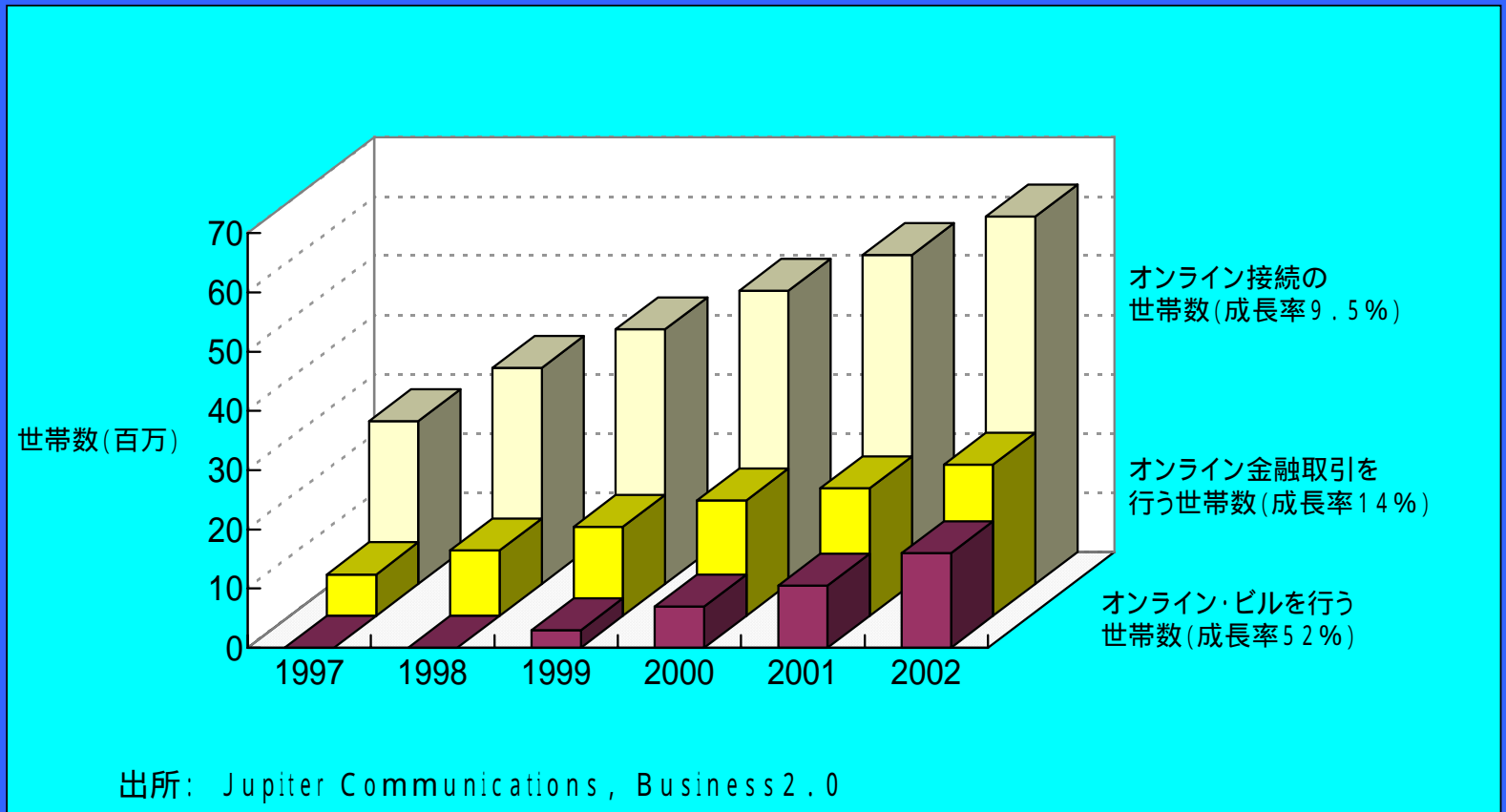
米国銀行のオンライン顧客数



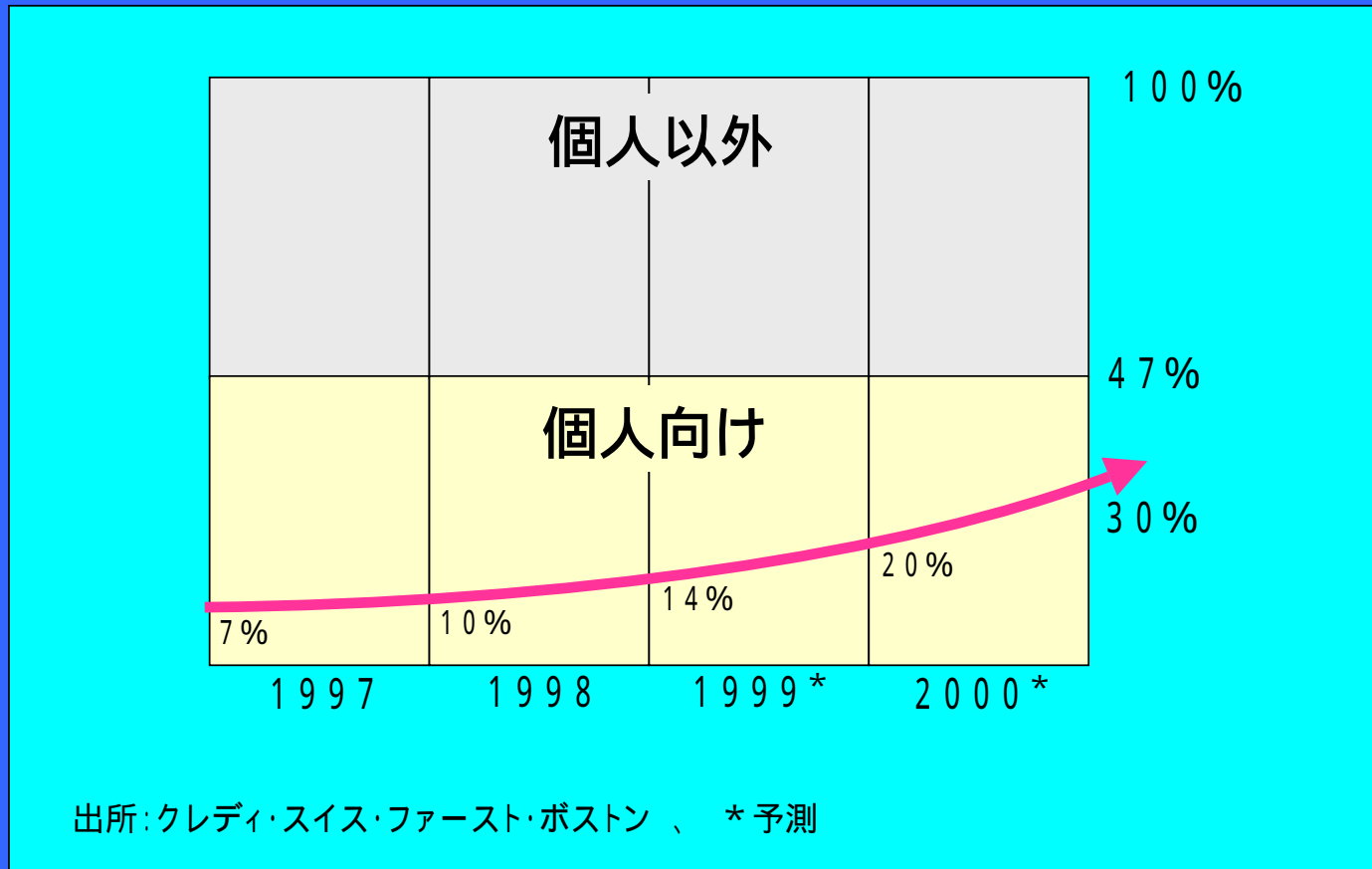
銀行の顧客一人あたり処理コスト



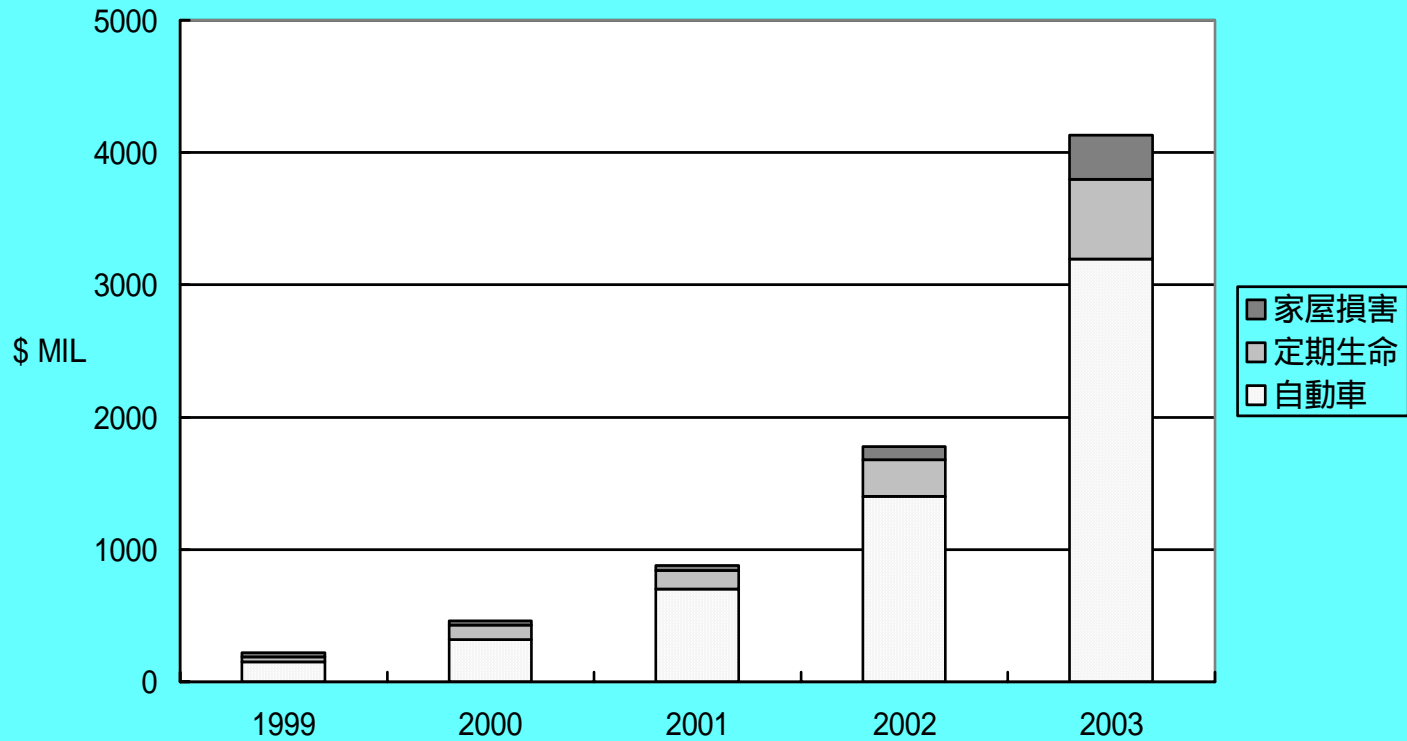
オンライン金融取引ノビルを行う世帯数(米国)



株式取引に占めるオンラインの割合



米国オンライン保険販売(予測)



出所: Forrester Research

ホールセール業務(投資銀行業務)へのインターネットの進展

- 証券取引はオークションであり、インターネットに適している
(例: [eBay](#), [PriceLine](#), [uBid](#), [CityAuction](#))
- 取引を証券会社会員間から個人間へ移行させる
取引所外私設取引システム(PTS)が、インターネットへ進展
- 証券発行のインターネット活用へ

証券アンダーライティングへのインターネット活用

	設立	創業の背景	主要戦略	優位性
W.R.ハンブ レクト	98 / 1	H&Q の創業者の一人が、インターネットの潜在性に着目	主幹事業務に焦点 (12億ドル程度の調達業務が対象)	ダッチ・オークション方式のオープン IPO により、価格決定のメカニズムを公正化
E* オファ リング	98	著名投資銀行家二人が設立。後に E*トレード社が出資	W.R.ハンブレクトよりも大規模のランザクションをもくろむ	E*トレード社の顧客サービスとして IPO 株を提供
Wit キャピ タル	97 (自社株の販売は95年)	地ビール製造会社が、自社の株式をネットで販売したことから発展	従来の投資銀行からの一部を受け持ち、オンラインで申し込み順に販売	新たな市場を開拓したが、上記2社に比べ、ブランド力は劣るといわれている

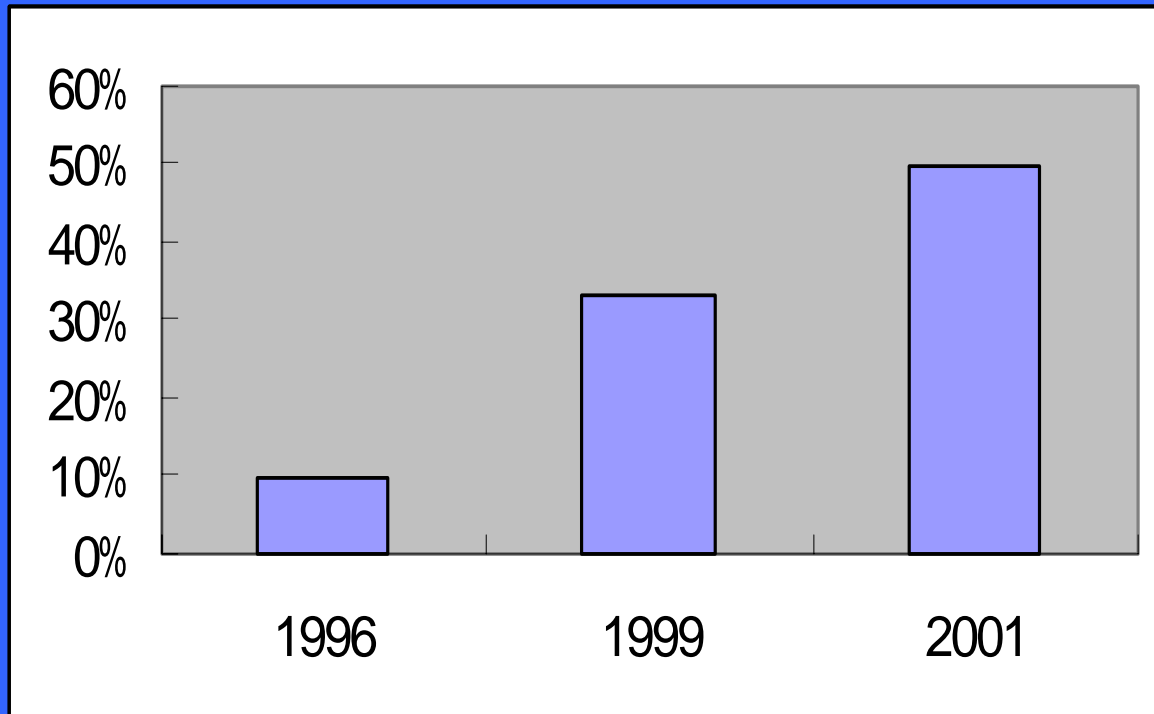
* この他、DLJダイレクトやチャールズ・シュワブも参入が予測されている

ECN(Electronic Communication Network)の事例

	株式	国債	社債	ジャンクボンド
米国	<p>市場が急成長しており、多数の企業が参入。</p> <p><u>Island ECN</u>, <u>Brut</u>, <u>Instinet</u>, <u>Strike</u>, <u>Archipelago</u>, <u>RediBook</u>, <u>Attain</u>, <u>Bloomberg Tradebook</u> 等</p>	<p>世界最大の取引量を誇るマーケットであり、1999年の中頃より取引額が急増。</p> <p><u>BondNet</u>, <u>TradeWeb</u>, <u>Bond Connect</u>, <u>Interinvest</u> 等</p>	<p>1999年の中頃より取引額が急増。</p> <p><u>BondNet</u>, <u>BondLink</u>, <u>Limit Trader</u>, <u>Bond Connect</u>, <u>Interinvest</u></p>	<p>1999年4月に最初のECNが参入。</p> <p><u>BondLink</u></p>
日本	<p>市場の大きな成長が予測され、多くの参入が予想される。既に以下の企業が参入を表明。 マネックス証券 + 住友DLJダイレクト証券</p>	<p>現在はOTCが中心であるが取引量が多いため、ECNでも大きな潜在市場がある。</p>	<p>現在、集中した市場がないため、ECNにより成長が期待される。</p>	

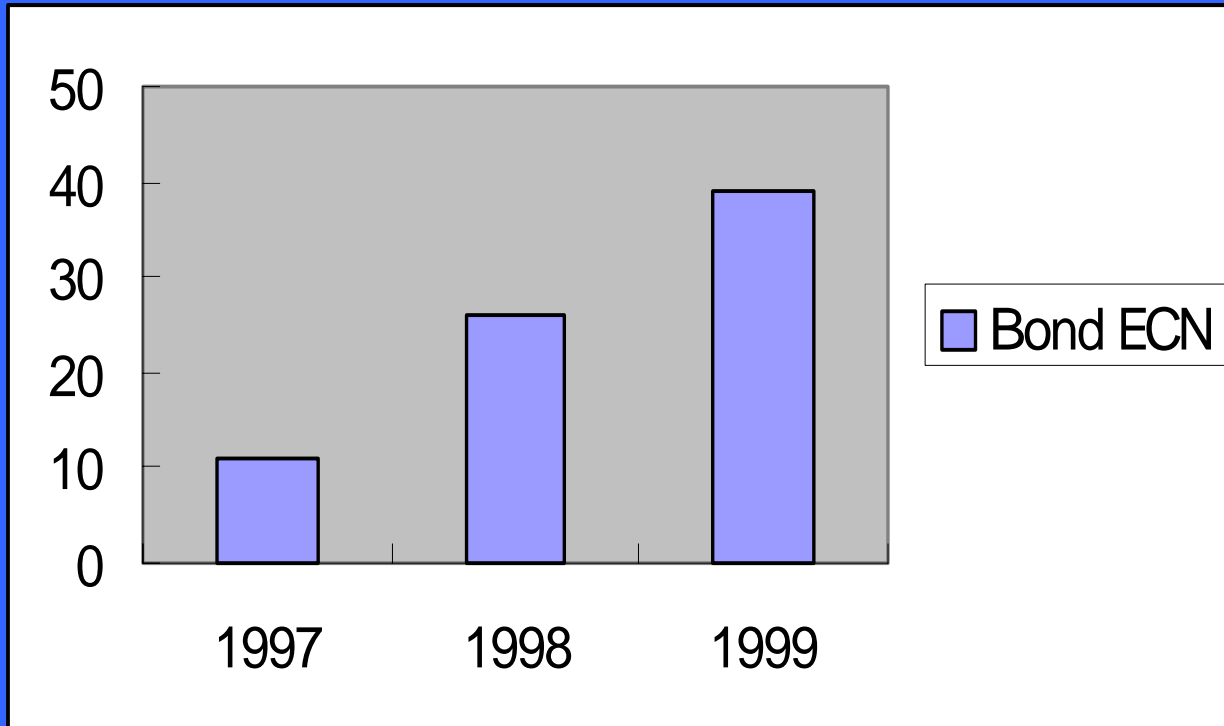
この他にも、ストック・オプション、スワップ、フューチャーズなど多数ある

ナスダックにおける ECNのシェアは急増している



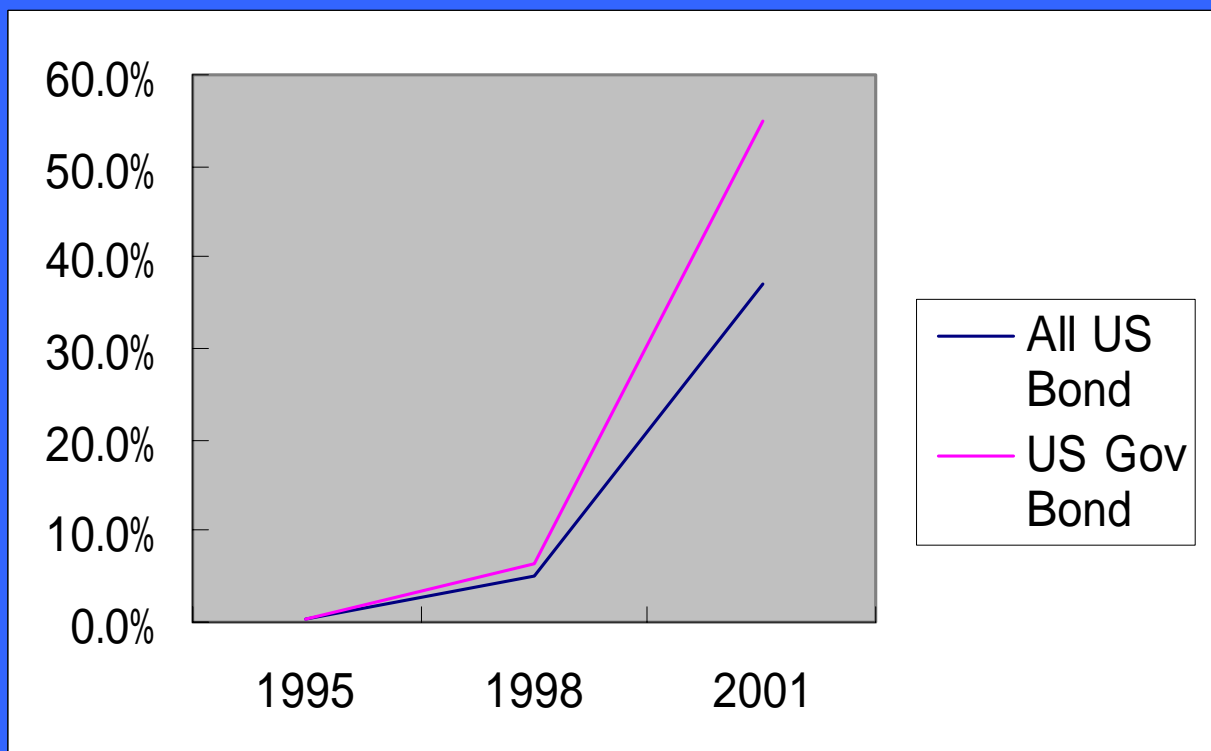
Source: Meridien Research

米国におけるBond ECNの企業数は急拡大



(注) 参入を計画中のものも含む

Bond ECNのシェアも増大する



Source: The Tower Group

BondECNの商品の増大

金融商品	企業例
Junk Bond	BondLink, LIMITader
転換社債	BondLink (2000以降)
Emerging Market Securities	BondLink (2000以降)
Yankee Bond *1	BondNet
Supranational Bond *2	BondNet
Repos *3	eSpeed, BrokerTec (2000以降)
Eurobonds	eSpeed, BrokerTec (2000以降), Instinet Fixed Income (2000以降)
Interest Rate Swaps	BrokerTec (2000以降)
Treasury Future	Cantor Exchange
Secondary Mortgage	Ultraprise, Pedestal
Option	Pacific Exchange (計画中)
Stock Option	International Securities Exchange (2000.5)
U.S.Treasury Futures	Cantor Fitzgerald (Cantor Exchange)

*1 Yankee Bond: 米国内で非居住者(例えば日本企業)がドル建てで発行する債券

*2 Supranational Bond: 国際機関債(アジア開発銀行債など)

*3 Repos: 買戻しの条件つきで、債券(特に日本ではJGB)を売って、資金を調達する